

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

< 学校の現状 >

〔よさ〕使命感のある教員。組織的に取り組む教職員集団。部活動・ボランティア活動等に積極的な生徒。使命感に燃え、課題意識をもち、熱心な教師。

学校に協力的な保護者。心から学校を応援し、協力を惜しまない地域。

〔課題〕学習面で、基礎・基本の定着をとおり、上位層の引き上げ、下位層の底上げ。

生活面で、規範意識をもち、自立的に行動できる生徒の育成。

保護者や地域との連携を深め、一貫性のある組織的な指導。

< 前年度の成果と課題 >

学校評価で「学校の雰囲気」が良くなったとの回答が62人(1/324人)から123人(1/325人)に倍増。しかし「分かる授業」のA・B評価の合計が21.8%に対し、C・Dの合計は78.2%。授業改善は今後も課題。

全教育活動をとおり道徳教育を推進するとともに、毎週の朝礼を通し、礼法やマナー、規範の大切さを指導する。話しを聞く態度・規律を守る態度・挨拶を中心に効果を得た。選択家庭科では、柔道室を和室に見立て和装と礼法学習を取り入れた。

保護者・地域とともに歩む学校を前提とし、開かれた学校づくり協議会・PTAとの、全面的協働態勢を整える。毎朝の挨拶運動をはじめとしたPTA活動は積極的に活動できた。保護者会の出席率が平均22%である。授業参加の実施等、工夫とともに出席を呼びかける。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項 - 1 新学習指導要領の主旨を生かした、確かな学力の定着と向上**

校内研修は、年間6回その他、授業改善プロジェクトチームを中心とした研究会を年間5回、その他自主研究授業等を含め11回の研究授業を実施。都や全国の各研究会参加者からは職員への報告をしている。

言語活動指導では、校内研修会で国立教育政策研究所・学力調査官を講師に迎え、新学習指導要領への対応ということで、言語活動を中心とした研修会を設けた。構成的グループエンカウターの授業を各学年で実施し、生徒間の交流の在り方を指導した。

漢字検定年3回、英語検定年2回の実施は開かれた学校づくり協議会の指導・監督のうえ実施してきた。

家庭学習・放課後学習では、学習支援員を中心に毎週水曜日に「放課後学習教室」を学校図書館を活用し開室している。ほかに定期考査1週間前は毎日開室。

重点的な取組事項 - 2 子どもの信頼に信頼関係に基づく生徒指導の充実

「事後の生活指導より、未然の生活指導を」を合い言葉に各学年で指導を進めた。毎週の朝礼では、無言入場・礼法の徹底を図り、規範意識の向上にあたってきた。生徒同士、生徒・教師間の交流を深化させる為の構成的グループエンカウターやコーチングを導入し、エンカウターについては研究授業を行った。

足立区花いっぱいコンクールには平成19年度から参加している。生徒会が呼びかけ、年4回のフラワーボランティア活動を実施。毎回50名程度の参加があった。毎年入賞してきたが、本年度は猛暑の関係で

育成が叶わず入賞もできなかった。合唱コンクールは、充実感を伴う行事として実施できた。挨拶指導については、毎朝、教員・保護者・生徒による挨拶運動を通年行ってきた。

教育相談態勢の強化・不登校生徒の登校復帰については、「悩み事アンケート」を年2回実施し、指定した教員と面談をとおり、その解決にあたってきた。スクールカウンセラー、子ども家庭支援センター、児童相談所、教育相談センターとは常時、連絡を欠かさず、本校コーディネーターを中心に教育相談委員会が中心に取り組んだ。

重点的な取組事項 - 3 教職員の専門性・資質・人間性の向上

教科・領域の授業研究については、年間計画に位置づけた研究授業の他、「相互授業観察週間」を設け、日々の授業の工夫・改善にあたった。新学習指導要領をふまえた授業改善として、先行実施をしている数学科で、新領域である「資料の活用」を題材に研究授業を2回行った。

2名の新規主任教諭が「学校の役割と使命」をテーマに生徒・保護者・地域からの期待や役割について「S W O T」分析演習を行い、学習・生活・折衝・組織貢献の4能力の育成を図ってきた。

その他には現在、東京教師道場教諭(数学)1名、足立区授業力リーダー(社会)1名、あだち若手研鑽塾(国語・理科)2名が、区、都、国の研究の推移を積極的に校内に伝え、授業改善に生かしてきた。

重点的な取組事項 - 4 教育環境の整備

学校図書館の充実では、学校図書館支援員の配置により格段にその環境は向上した。本校の学校図書館の課題は図書館自体の面積が狭く座席数が24席しか確保できないことである。なお、本年度は図書貸出しシステムが電算化となり、蔵書管理も一元管理となった。なお、蔵書未充足分に対し、158万円分の補充を行った。学校図書館支援員とともに3名の学校図書館ボランティアによる支援も大きかった。

施設・設備・校内掲示の充実については、技術、美術、家庭、書写担当教員が中心となり、生徒の作品掲示が絶えることのないよう配慮した。

放課後学習教室は、毎週水曜日の他、試験1週間前は連日開室した。夏季休業日には、4週間を「学習教室」として開室し、大学生の学習支援員を配置した。利用生徒は、延べ918名(1月末現在)に至る。

重点的な取組事項 - 5 豊かな成長を図る地域協働方の学校経営の推進

英語検定・漢字検定については、開かれた学校づくり協議会の全面的協力で実施できた。

P T A主催による「こども発見学校参観」は新しい視点で生徒の指導・評価にあたっていただいた。

小中連携については、「小学校フェスタへの参加(よさこい、ボランティアスタッフ等)」「職場体験学習」「部活体験」「少年消防隊の演習」等を実施した。

中高連携では、都立足立工業高校での「ものづくり体験学習会」(5回)を実施した。

地域連携ボランティアの推進については、「足立区ボランティアまつり」「西新井住区まつり」「西新井地区対親と子のふれあい音楽祭」「第五地少協運動会」「環七浄化作戦」「西新井中学校避難所訓練」「西新井第一小学校避難所訓練」「保護司会明パレード」「西新井よさこいフェスタ」「西一小フェスタ」「西二小まつり」「フラワーボランティア」「全校美化ボランティア」「足立区総合防災訓練」「消防合同点検訓練」以上、参加生徒数延べ836名(10月末)により、青少年委員、地区対、地元消防団等との連携を深めている。

学校関係者評価については、本校開かれた学校づくり協議会会長、P T A会長・副会長、同窓会長、青少年委員、体育指導員、地域協力者、および校長・副校長の計10名による学校関係者評価部会を設け、学校経営計画の説明、自己評価書の提示、評価部会の意見集約を、求めていく。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項 - 1 新学習指導要領の主旨を生かした、確かな学力の定着と向上

平成 24 年度完全実施に向け、各教科でその趣旨を生かした研修を深めていく必要がある。また学習指導と生活指導を両輪として「話を聞く態度」「規律を守る態度」「挨拶」の指導は、今後も不可欠と考えている。

重点的な取組事項 - 2 子どもの信頼に信頼関係に基づく生徒指導の充実

構成的グループエンカウンターやコーチングなど、教育相談に軸を置いた生徒指導は、今後もすすめていかなければならない。広汎性発達障害等、教育相談のレベルをこえた対応については、学校外の諸機関との連携、さらには医療関係に広げたネットワークが課題である。

重点的な取組事項 - 3 教職員の専門性・資質・人間性の向上

本校では教科を越えた授業改善プロジェクトチームがある。研究授業を実施する前には、必ず「事前検討会」を開く。教科をこえた検討会は、教員の授業改善への意識高揚にもつながり、今後も広げ、常に課題をもって資質向上にあたる研究態勢を整える。

重点的な取組事項 - 4 教育環境の整備

毎年行っている校内美化活動で、本年度も 168 名の地元町会、保護者、生徒、教員により、学校外回りの塀一周のペンキ塗装を実施し、環境美化が進んだ。作業にあたっては、広範な学校関係の方々に参加いただいた。とくに、活動後に行う体育館での合同反省会では、地域の方々の紹介もでき、意義は大きい。各学級での整備は、整備状況や作品展示など良く配慮されたものであった。さらに工夫を凝らした学校環境整備にあたるとともに、生徒の作品掲示が絶えない学校環境を目指す。

重点的な取組事項 - 5 豊かな成長を図る地域協働型の学校経営の推進

地域連携型の各種ボランティア活動では、生徒に「良かった」と思える成就経験をさせたい。そのためにはどうしても事前・事後の指導、引率が必要になってくる。保護者の協力をあおぎ、生徒会担当教員の負担配慮を課題とし、生徒の活動範囲を確保していく。

学校関係者評価については、今後も研究を重ね、目標の重点化、取り組みの可視化を図り、学校の組織的・継続的な取り組みをめざす。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

本校では、休日開催の授業参観や 168 名の生徒・保護者・地域・教員が参加した「全校美化ボランティア」、「親睦ソフトボール・バレーボール大会」等、保護者や地域の皆様が学校に関われる企画を準備しております。また、「学校だより」は町会・自治会の回覧板を活用させていただき、ホームページも毎日更新しております。どうぞ、学校行事や保護者会、イベント等には、積極的にご参加ください。

新年度も、本校では、「学校」「家庭」「地域」による協働態勢を推進し、教育課題その他、学校運営上の諸課題に対応していきたいと考えています。「知」「徳」「体」のバランスのとれた生徒の発達のためには、家庭での生活習慣の確立が欠かせません。各ご家庭では、引き続き早寝・早起きや朝食の摂取など基本的な生活習慣の確立に向けて、ご協力をお願いします。

保護者の皆様との連携を一層深め、学校・保護者による組織的な指導により、生徒の規範意識を高め、自立的に行動できる生徒の育成をめざしてまいります。

次年度も、ご理解、ご支援のほど、お願いいたします。

2. 平成22年度の重点的な取組事項

< 達成度 :十分に達成 :おおむね達成 :達成せず :課題が残る >

重点的な取組事項 - 1 新学習指導要領の主旨を生かした、確かな学力の定着と向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
分かる授業・達成感のある授業	新学習指導要領全面実施への対応。	課題が残る	分かる授業を工夫しているか、の問いに対し、そう思う・大体そう思うの評価合計が40%であり、課題が残る結果である。 授業規律を含めた学校生活、お互いに尊重し合える雰囲気づくりが課題である。	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
校内研修会の充実	研究授業は校内研含め5回	校内研修、改善プロジェクト外研究授業(自主研修含む)	年6回、年11回	言葉の在り方指導は今後も課題	
言語活動の充実	人間尊重。知的な好奇心高揚。	グループエンカウンター その他 各教科で研修推進	概ね達成	国研・学力調査官を迎え校内研修会実施。学習の基本は知的な好奇心の高揚にある。	
家庭学習・放課後学習充実	家庭学習の定着。	「放課後学習教室」 「家庭学習の指導の在り方」をテーマに校内研修	放課後学習は918名 家庭学習定着には課題。	家庭学習については今後も課題	

重点的な取組事項 - 2 子どもの信頼に信頼関係に基づく生徒指導の充実

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
安全・安心・充実の学校生活の基盤整備	不登校生徒の減少	前年度比で、1年1人減、2年4人減、3年9人増。	不登校生徒の減少は、次年度も課題である。スクールスタッフとの連携も有効である。	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
未然の生活指導の強化	各学年での実施	エンカウンター、コーチング等の導入。	全学年で実施。厳しい状況が続いている。	全校一丸となり対応しているが、毅然とした指導を継続する	
花と歌と挨拶いっぱい運動	花コン 合唱コン 全生徒挨拶	植栽活動 全教員による校歌指導 全教員による挨拶指導。	花を絶やさない合唱コンクール 毎朝の挨拶指導	挨拶については、当番で全教員と多くの保護者が参加。	
教育相談態勢の強化	不登校生徒の登校復帰。	悩み事相談実施。 S・C・諸機関と連携強化	年2回実施 新たに登校支援員も連携	教育相談センターとの連携は大きな力となっている。	

重点的な取組事項 - 3 豊かな成長を図る地域協働型の学校経営の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
実践的課題解決に取り組み、自らの職能成長を図る	「授業内容は理解」「とても分かる」「すこし分かる」が70%以上	1年 73.0% 2年 66.1% 3年 64.0% 全体 67.7%	授業での反応は向上したが、基礎学力の定着・向上が課題である。学年進行に伴い、減少傾向が見て取れる。	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教科及び領域の授業研究	日々の授業の工夫・改善。	新学習指導要領をふまえ授業改善の実施。	相互授業観察週間年2回。先行実施教科で研究授業	24年完全実施に向け、移行2年目の課題を明確にする。	
意図的・計画的OJT推進。	学習・生活・折衝・組織貢献能	4能力育成をOJT推進担当を中心に推進	学校の役割と使命で「SWOT」分析演習	主幹教諭、主任教諭の位置を自覚し、OJTを推進する	
経験や職層に応じた研修	西新井中教員として職務従事	リーダー養成研修。若手教職員の育成	教師道場教諭授業力リーダー教諭の成果を校内に伝達	この2年間で初任者が3名(期限付任用含む)若手の指導態勢の確立を課題とする。	

重点的な取組事項 - 4 教育環境の整備

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
潤いのある学校環境づくり	未使用スペースの整備と積極的活用	木工室、金工室整備視聴覚室整備、ギャラリーの常設。	限られたスペースを有効活用できた。多目的室整備及び、和室新設をぜひ進めたい。	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校図書館の充実	蔵書数の基準札数補充	図書館支援員、ボランティア、教員の連携態勢推進。図書館支援員中心とした選書作業。	本年度、新規蔵書補充は、668冊。他に現在申請中	次年度は朝読書を全校態勢で実施予定。各教室に朝読書用図書コンテナを準備。	
施設・設備・校内掲示の充実	掲示物配慮。円滑な学習活動。	共有部への作品掲示。各教室の掲示物。木工質、金工質、視聴覚室、カウンセリング室の整備。	木工・金工室の整備はほぼ完了。	校内美化ボランティアでは今年始めて、外壁の塗装に挑戦し、全週塗布が完了。多くの手による共同作業による。	
放課後学習教室の推進	開室日数、年間50日以上	副担任講師が保護者あてに案内通知を隔月で発行させ、出席確認、生徒への評価をしている。	利用生徒は、918名(1月末現在)	定常的な開室は定着。学習支援ボランティアとして学生の定常的確保が課題である。	

重点的な取組事項 - 5 教職員の専門性・資質・人間性の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域とともに歩む学校	町会主催行事、地域主催行事、近隣小学校行事に積極的に関わる。	新規として2町会のビューティフルウィンドウズに参加。	多くの関係者の方々より支援をいただき、結果を得ることができた。	

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携・中高連携の推進	具体的方策の実施	小学校土曜事業へスタッフ参加、小学校フェスタへの参加(2小学校)、職場体験学習(2校)、部活体験(本校で)、中学生消火隊の演示(小学校で)	小学校フェスタ参加、出前学校説明会等。工業高校でものづくり体験5回	児童・生徒レベルの交流、教員レベルの交流をそれぞれ進めていきたい。	
地域連携ボランティア推進	参加生徒数延べ700人以上	青少年員、地区対、地元消防団等との連携。	参加生徒数延べ974名。(1月末現在)	ボランティア活動は事前指導は重要。新たに始めた「西中少年消火隊」は今後の防災生涯学習の契機となる。	
学校関係者評価の実施	学校関係者評価の実施	文科省・区教委ガイドラインに基づき実施	協議会会長以下10名で学校関係者評価部会を設けた	学校経営計画の説明、自己評価書の提示、評価部会の意見集約を進めていく。	

3. 学校活動全般について

生徒の規範指導は、学校内生活に止まることなく全ての生徒にとって、社会で生きる上で必要な内容である。しかしながら、現在は十分に指導し切れていない現状がある。生徒の心を耕す指導(道徳・エンカウンター指導・学校行事等)、生徒の心を癒す指導(教育相談・学校外諸機関等)、規律を求めていく指導(授業規律・一致した指導態勢等)の三位一体が必要である。

基礎的・基本的な学力の定着に向け、授業力の向上を図るため定期的に校内研修に取り組んだ。教科は異なっても組織一丸となって取り組む教職員集団は、本校の貴重な財産である。しかし日々の授業改善は欠くことはできない課題である。生徒が前向きに取り組む授業への向上をめざし、研究・研修の充実を図るとともに、継続的な家庭学習の工夫・改善を進めていきたい。

部活動では、運動・文化の各部活動が目に見える成果をあげてきた。今後も、部活動の果たす教育的役割をふまえ、活動目標に向けた活動内容の向上・参加意識の向上に向けて組織的に取り組んでいきたい。新学習指導要領で明らかにされた学力観をふまえ、本校の学校教育目標を見直していくとともに、移行最終年度である本年度を移行の仕上げの年度年、次年度に引き継ぐ。

P T A本部からの企画・提案で「子ども発見学校参観」を12月に実施していただいた。従来の視点を改め、生徒の肯定的評価に目を向けた学校参観をしていこうという取組である。実施後は参加者の参観メッセージを冊子にし、子ども・保護者に返すという企画を実施していただいた。また、開かれた学校づくり協議会をはじめとする地域の皆様からのご理解・ご協力により、本年度の学校運営が推進できたものと、改めて感謝申し上げます。